

所長挨拶

知的好奇心を高める快適な場として

ささせ いわお
笹瀬 巖

(理工学メディアセンター所長)



平成26年4月より、理工学メディアセンター所長を仰せつかりました情報工学科の笹瀬巖です。前任の前田吉昭先生をはじめ歴代所長のリーダーシップにより、日本有数の理工学系図書館として広く認知されている理工学メディアセンターを、より一層発展できるよう精一杯努めますので、どうぞよろしくお願いいたします。

理工学メディアセンターは、利用者の皆様から、とても利用しやすく、ユーザーフレンドリーであると、高い評価をいただいています。これも、メディアセンターの職員や学生スタッフの絶え間ない献身的な努力の賜物です。時代の変化や利用者のニーズの多様化に対して、柔軟かつ迅速に 대응して、専門書・文献の拡充、閲覧・検索機能の改善、1人で集中して勉強できるエリア、グループでディスカッションができる学習室、イベントエリア・コンサルテーションスペースなどを適切に整備してこられた、職員・学生スタッフの皆さんに心から御礼申し上げますとともに、これからもより快適な環境・サービスを提供できるよう、尽力をお願いしたいと思います。

私の専門分野は、携帯電話や無線LANなどに代表される移動通信・ワイヤレス通信ネットワーク技術です。これらの分野は、ここ20年間で、目覚ましい発展を遂げました。私が少年時代に楽しんだ漫画「鉄腕アトム」には、空を自在に飛べる鉄腕アトムが、どこかのお宅で有線の黒電話を借りて電話するシーンがあったことを覚えています。当時の人にとっては、「空を飛ぶ」ことより、「無線の電話で話す」ことの方がより夢物語だと思われていたのです。それが、だれでも携帯端末を持ち、データ伝送速度も数キロビット/秒から数100メガビット/秒（なんと、10万倍以上！）と高速になりました。また、これらの技術革新が高度情報化社会を牽引し、新たなサービスや文化を生み出していることにも驚きを禁じえません。携帯電話やインターネットがなかった時代

を、学生さんは想像すらできないのではと思います。

情報通信技術・信号処理技術の急激な発展に伴い、情報が紙媒体から電子媒体、活字から音楽や映像に移り変わり、手元の情報端末から、あらゆる情報を即座に得ることができる時代になっています。言い換えると、「図書館」に行かないと、必要な文献や書物が手に入らなかった時代は終わりを告げ、「図書館=建物」というイメージは希薄になっています。

もちろん、理工学メディアセンターの役割として、理工学における最先端分野の研究・開発・教育・啓蒙活動の活性化を支援することが最重要であることに変わりはありません。情報爆発社会において、如何に信頼できる価値の高い情報を、迅速に適切に提供できるかが、メディアセンターの価値を決める指標であることは疑いの余地もありません。

しかし、私は、「学生や教職員が知的好奇心を高める快適な場」としての環境を整備することも、理工学メディアセンターの役割として、とても重要であると思います。先日、チェコのストラホフ修道院の「神学の間」「哲学の間」と名付けられた図書館を見学する機会に恵まれました。世界一美しい図書館と称されるとおり、自分を見つめなおし、瞑想したくなる高貴な雰囲気を出す素晴らしい空間でした。

私は、理工学メディアセンターが、知的好奇心を高める場として、より一層機能し、皆様がキャンパスライフをさらに満喫できるよう、企画等を充実させたいと思います。また、教職員と学生の皆様が、気軽に語り合うコミュニケーションの場として、ご活用頂けるよう努めたいと思います。「自己研鑽や情報交換や交流の貴重な場、文化の香りが漂う素敵な場」として、皆様が理工学メディアセンターの存在価値を高く評価し、より好きになっていただけることを、大いに期待しています。ご支援いただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。